Operation Guide 5023 (OC)

CASIO

お使いになる前に

■ 十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。保管期間により電池容量が減っている場合がありますので、お使いいただく前に十分に充電してください。（詳しくは「ソーラー充電について」をご覧ください）

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針を行ない、充電不足をお知らせします。

※詳しくは「ソーラー充電について」の「充電切れ予告」をご覧ください。



■ パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに本機を放置すると自動的に針の動きを停止してスリープ状態にし、節電する機能です。
文字板に光をあてるかボタン操作をすることでスリープ状態は解除されます。

※針は停止していますが、時計内部では時を刻み続けています。

※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が停止することがあります。

〈参考〉スリープ状態になるには

●スリープレベル１

午後 10 時～午前 6 時の間、暗いところで本機を約 1 時間放置します。

- 秒針がその場で停止します。

※時針、時針（24 時間制）、分針、日付表示は運針を継続します。

※自動受信は行ないます。

●スリープレベル２

スリープレベル1のまま暗いところで6～7日間経過します。

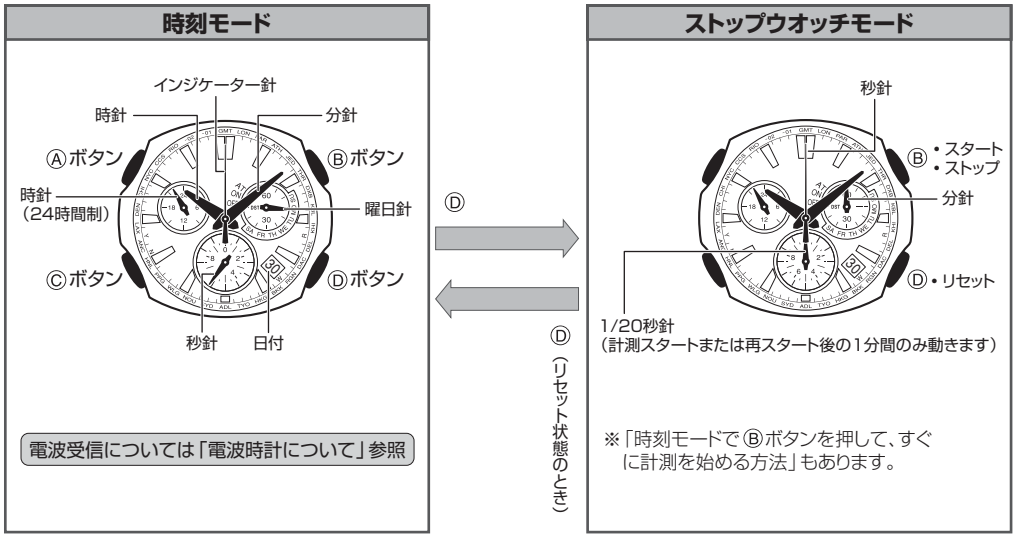
- 時針、時針（24 時間制）、分針はその場で停止します。
- ワールドタイムモードの場合は、時刻モードの時刻が「0：00」になったとき（運針は停止しています）に、時針と分針が 12 時位置に移動して停止します。
- 自動受信は行ないません。

※日付表示は運針を継続します。

操作のしくみと表示の見方

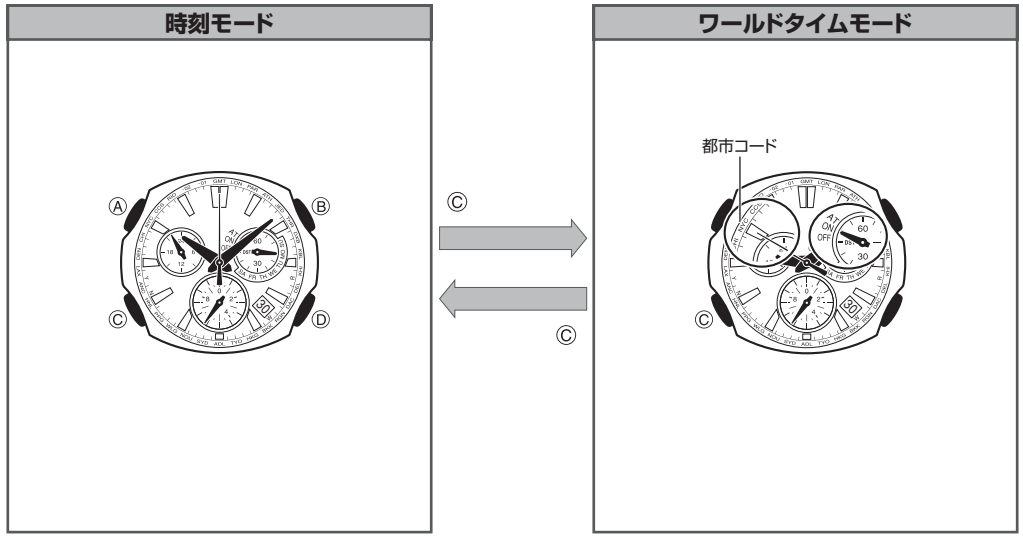
※機種により形状や文字板の印刷内容が異なります。

- 時刻モードとストップウオッチモードへの切替えはⒹボタンで行ないます。



- 時刻モードとワールドタイムモードへの切替えはⒸボタンで行ないます。

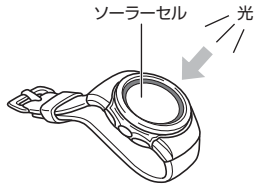
※モード切替え後、約 1.5 秒経ってから針が動き出して、ワールドタイムを指し示します。
針が動いている間は、時刻モードへの切替えだけが行なえます。



ソーラー充電について

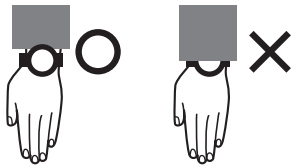
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定した状態でお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●腕から外したときは文字板（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

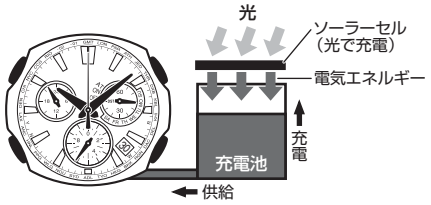
●腕に付けているときはなるべく衣類の袖が文字板（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



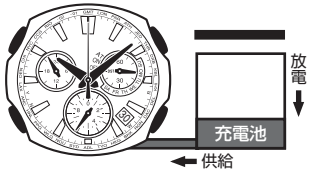
一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●リカバー状態について

電波受信などを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、運針を停止し、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ストップウオッチ計測
- 電波受信

時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針を行ない、充電不足をお知らせします。

※時計機能停止状態になっても再度充電を行なうと使用できます。

※時計機能停止状態から充電したときは、十分に充電されると針が現在時刻の位置まで移動します。

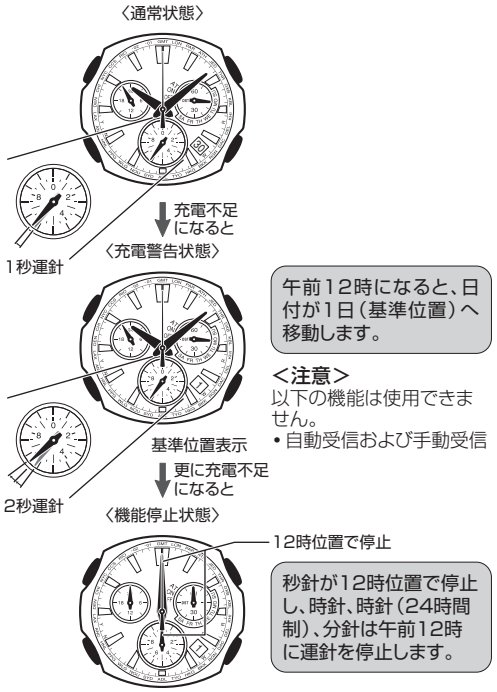
※通常状態になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

●炎天下に駐車中の車のダッシュボード
●白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
●直射日光が長く当たって、高温になる所

充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。



●充電の目安

• 1日、安定した状態で時計を使用するために必要な充電時間

※1日当たり電波受信を6分間行なった場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

※こまめに充電を行なえば、安定した状態でご使用いただけます。

• 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間	
	運針開始まで	フル充電まで
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約1時間	約20時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約2時間	約73時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約4時間	–––
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約34時間	–––

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズ送信所から送信されています。

●イギリスの標準電波（MSF）はNational Physical Laboratory（NPL）が運用しており、イングランド北部のアンソーン送信所から送信されています。

●ドイツの標準電波（DCF77）はPhysikalisch-Technische Bundesanstalt（PTB）が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲン送信所から送信されています。

※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

■ 電波の受信範囲の目安

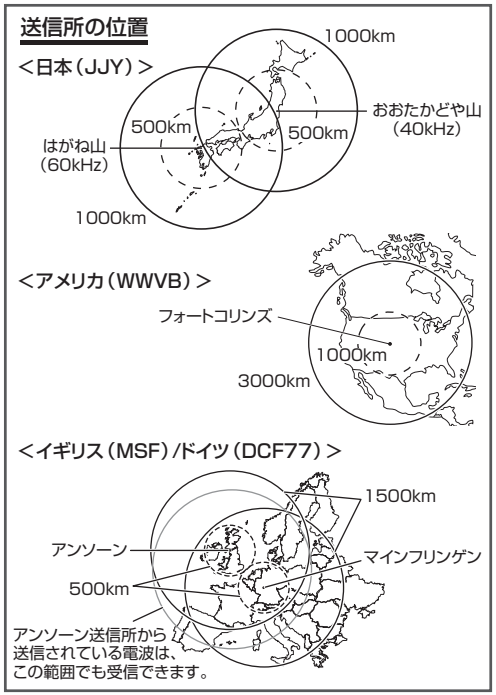
本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。

* ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」参照。都市コードについては「都市コード一覧表」参照。

ホームタイム都市（受信機能対応都市）	受信電波
TYO、HKG	日本の標準電波（JJY）
HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC	アメリカの標準電波（WWVB）
LON、PAR、ATH	イギリスの標準電波（MSF）、ドイツの標準電波（DCF77）

※HKG、HNL、ANCの各都市は、受信機能対応都市としています。条件が良ければ受信する場合もあります。

●受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。
※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼、夜）、各種ノイズ



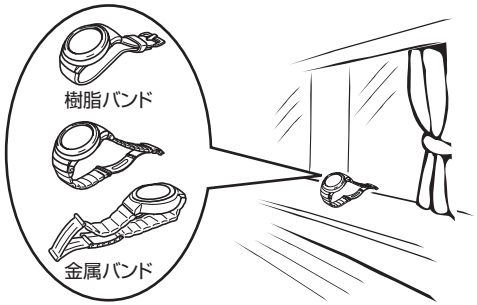
■ 受信時間について

受信時間はおよそ２～７分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大13分かかる場合があります。

■ 電波受信を行なうときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。

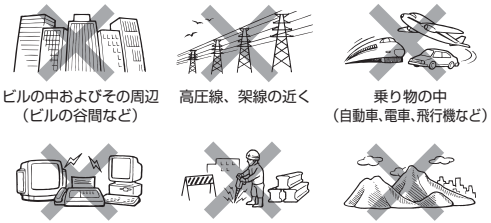


●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

●自動受信：１日最大６回
●手動受信：必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます

■ 自動受信

●自動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。
- 時刻モードのホームタイム都市に、現在地で受信可能な電波に対応した都市を設定する（「電波の受信範囲の目安」、「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」参照）
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがって「時刻モード」または「ワールドタイムモード」にする
- 下記の表中の「自動受信開始時刻」前に、「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

●時刻モードの時刻（「操作のしくみと表示の見方」参照）が下記の表中の自動受信開始時刻になると、１日最大６回、自動的に受信を行ないます。ただし、１日１回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行ないません。
また、自動受信開始時刻は、設定したホームタイム都市やサマータイム設定によって異なります。

※サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から１時間進める夏時間制度のことです。

※サマータイムを採用していない国や地域があります。

※サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

ホームタイム都市		自動受信開始時刻	
		1	2
TYO、HKG	スタンダードタイム	午前12時	午前1時
HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC	スタンダードタイム サマータイム	午前12時	午前1時
LON	スタンダードタイム	午前1時	午前2時
	サマータイム	午前2時	午前3時
PAR	スタンダードタイム	午前2時	午前3時
	サマータイム	午前3時	午前4時
ATH	スタンダードタイム	午前3時	午前4時
	サマータイム	午前4時	午前5時

自動受信開始時刻			
3	4	5	6
午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時

★受信が成功すると
成功した時点で受信を終了し、時刻モードに戻って修正した時刻を表示します。

★受信が失敗すると
時刻修正は行なわずに、時刻モードの表示に戻ります。

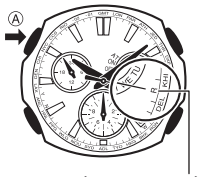
■ 手動受信

必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます。

●手動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。
- 時刻モードのホームタイム都市に、現在地で受信可能な電波に対応した都市を設定する（「電波の受信範囲の目安」、「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」参照）
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがって「時刻モード」にする
- 「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約2秒間押し続けます



➡インジケーター針が電波受信結果を表示後、「R」（または「READY」）位置に移動します。
※時針、時針（24時間制）、分針は通常通り運針します。
※秒針は「0」位置で停止します。

★受信中は
- インジケーター針が「W」（または「WORK」）位置に移動します。

※時針、時針（24時間制）、分針は通常通り運針します。
※受信が完了するまで、時計を動かさないでください。
※受信環境によっては、受信動作が安定するまで、インジケーター針が「R」（または「READY」）位置と「W」（または「WORK」）位置とを繰り返し移動することがあります。



★受信完了
- 受信が成功すると、時刻を修正し、秒針が動き出します。時刻修正後、インジケーター針が「Y」（または「YES」）位置に移動します。
  ※約5秒後に時刻モードに戻ります。
- 受信が失敗すると、インジケーター針が「N」（または「NO」）位置に移動し、受信操作前の時刻に合わせて秒針が動き出します。
  ※約5秒後に時刻モードに戻ります。



★受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

■ 受信結果の確認

時刻モードのとき

Ⓐボタンを押します

➡受信確認モードになり、受信結果を表示します。受信が成功しているときはインジケーター針が「Y」（または「YES」）（成功）を指し、受信が失敗しているときは「N」（または「NO」）（失敗）を指します。
※時刻モードに戻すには、Ⓐボタンを1回押します。
※約5秒間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



受信結果は受信ごとにリセットされます。

■ 受信に関するご注意

●ストップウオッチモードで計測中は、自動受信は行なわれません。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本、アメリカ、イギリス、ドイツで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、平均月差±20秒以内の製品仕様に記載の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■ こんなときには

1. 電波が受信できません。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください。（「電波受信を行なうときの場所について」参照）

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●ホームタイム都市が正しく設定されていますか。
「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がくるっています。

●ホームタイム都市が正しく設定されていますか。
「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

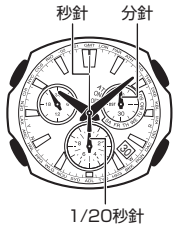
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AT（AUTO）	電波受信による自動切替え

ストップウオッチの使い方

ストップウオッチは1/20秒単位で59分59秒95（60分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

●計測リセット状態
ストップウオッチモードの分針、秒針、1/20秒針が12時位置を指し示している、以下の状態のことです。
- 計測中ではない
- 計測の一時中断中ではない
- 計測値の表示中ではない

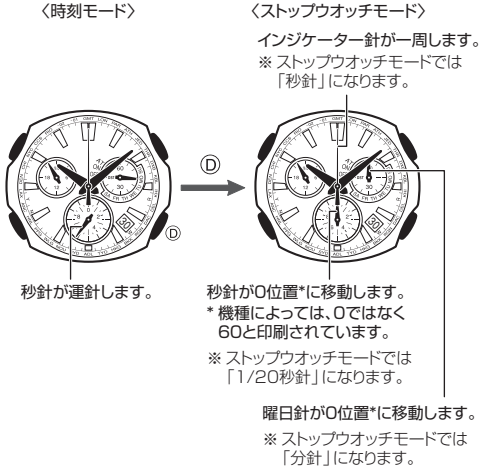
計測リセット状態にするには、「計測中」、「計測の一時中断中」、「計測値の表示中」にⒹボタンを押します。
なお、計測リセット状態でⒹボタンを押すと、時刻モードに切り替わってしまいます。



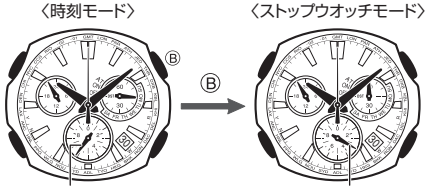
■ストップウオッチモードへの切替え方法

ストップウオッチモードに切り替えるには、2つの方法があります。

●時刻モードのときに、Ⓓボタンを押す
ストップウオッチモードの計測リセット状態（左記参照）になります。
ⒷボタンをⒷを押すと、ストップウオッチの計測が始まります。

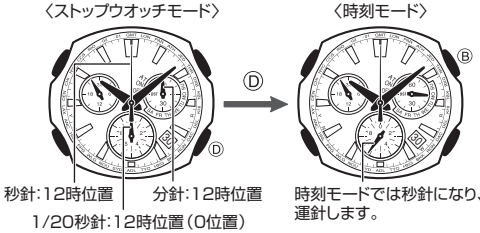


●時刻モードのときに、Ⓑボタンを押す
Ⓑボタンを押すと同時に計測が始まります。
※1秒以内の計測は行なえません。
※以下の状態のときは、時刻モードでⒷボタンを押してもストップウオッチの計測が始まりません。
- 日付の更新中（23:59 59秒～更新が終わるまでの間）



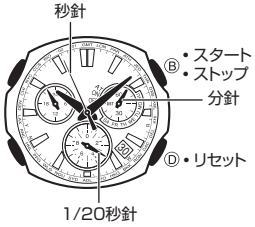
■時刻モードへの切替え方法

計測リセット状態で、Ⓓボタンを押します。



■計測のしかた

時刻モードまたはストップウオッチモードで行ないます。





※1/20秒針は、計測スタートまたは再スタート後の1分間のみ動きます。
ストップ後は、計測値を表示します。
※計測中にⒹボタンを押しても、リセットされます。

＜積算計測＞
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒷボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

ワールドタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓒボタンを押し、タイマーモードに切り替えます。

ワールドタイムモードでは、世界27都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。



■ご注意■
選択都市の時刻が合っていないときは、ホームタイム都市の設定を確認し、違っているときは正しく直してください。
※ホームタイム都市設定は「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」をご覧ください。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓボタンを押します



➡Ⓓボタンを押すごとにインジケーター針が1都市ずつ進みます。
※Ⓓボタンを押してから約1秒後に選択都市の時刻にかわります。
なお、時刻を表示する（針が止まる）までに時間がかかる場合があります（最大で約2分）。
※選んだ都市の時刻を表示するために針が動いている間は、「Ⓒボタンを押して時刻モードに切り替える」以外の機能は働きません。

■サマータイムについて

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から1時間進める夏時間制度のことです。
●サマータイムを採用していない国や地域があります。
●サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

● ON サマータイムはONに設定されていて、スタンダードタイムより1時間進んでいます（夏時間）。
● OFF サマータイムはOFFに設定されています（スタンダードタイム）。

●サマータイムのON／OFF確認
ワールドタイムモードのとき

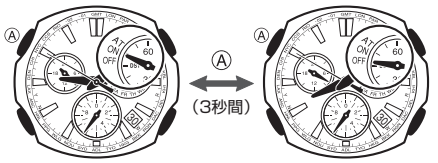


●サマータイムのON／OFF設定
ワールドタイムモードのとき

Ⓓボタンを押して、設定したい都市を選びます

Ⓐボタンを約3秒間押し続けます

➡Ⓐボタンを約3秒間押し続けるごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムは各都市ごとに設定することができます。ただし、“GMT”にはサマータイムの設定はできません。また、“ホームタイム都市”に設定されている都市のサマータイムの設定は、ワールドタイムモードでは行なえません。「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」の「サマータイムを設定する」で操作を行なってください。



■ ホームタイム都市との入れ替え

現在ワールドタイムモードで選んでいる都市を、ホームタイム都市と入れ替える（ホームタイム都市に設定する）ことができます。

例：ホームタイム都市をニューヨーク（NYC）から東京（TYO）に設定する。

	ホームタイム都市	ワールドタイムモードでの都市
操作前	ニューヨーク(NYC)	東京(TYO)
操作後	東京(TYO)	ニューヨーク(NYC)

1. 都市を選ぶ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓボタンを押して、設定したい都市を選びます



2. ホームタイム都市を入れ替える

Ⓑボタンを約3秒間押し続けます



➡ 1.で選んだ都市（東京）がホームタイム都市になります。

※ 操作を行なう前のホームタイム都市（ニューヨーク）がワールドタイムモードの選択都市になり、ワールドタイムモードの時刻が修正されます。

■ご注意■

日本でお使いの場合は、必ずホームタイム都市を「TYO」に設定してください。
「TYO」でない場合は、電波受信ができなくなったり、時刻がずれたりします。

■都市コード一覧表

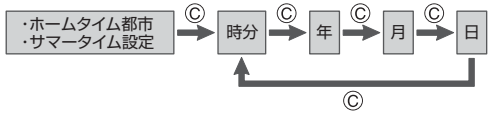
コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
GMT	+0.0	〈グリニッジ標準時〉	ADL	+9.5	アデレード
LON	+0.0	ロンドン	SYD	+10.0	シドニー
PAR	+1.0	パリ	NOU	+11.0	ヌーメア
ATH	+2.0	アテネ	WLG	+12.0	ウェリントン
JED	+3.0	ジェッダ	PPG	−11.0	パゴパゴ
THR	+3.5	テヘラン	HNL	−10.0	ホノルル
DXB	+4.0	ドバイ	ANC	−9.0	アンカレジ
KBL	+4.5	カブール	LAX	−8.0	ロサンゼルス
KHI	+5.0	カラチ	DEN	−7.0	デンバー
DEL	+5.5	デリー	CHI	−6.0	シカゴ
DAC	+6.0	ダッカ	NYC	−5.0	ニューヨーク
RGN	+6.5	ヤンゴン	*CCS	−4.0	カラカス
BKK	+7.0	バンコク	RIO	−3.0	リオデジャネイロ
HKG	+8.0	香港	−2.0		
TYO	+9.0	東京	−1.0		

※この表は2007年6月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。
※各国の時差やサマータイムは、その国の都合により変更になることがあります。
★2007年12月にCCS（カラカス）の時差が「−4.5」に変更になっていますが、本機では対応しておりません。「時差−4.0の地域」としてご使用ください。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方

ホームタイムデータ（お使いになる地域や都市、時刻、カレンダーなど）を設定します。
電波受信ができない場所で本機をお使いになる場合も、以下の操作で時刻や日付を合わせてください。

※ホームタイムデータの設定や修正は、時刻モードで行ないます。
※修正できる項目は、Ⓒボタンを押すごとに、以下の順で切り替わります。



■「ホームタイム都市」、「サマータイム設定」を変更する

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約5秒間押し続けます



➡インジケーター針がホームタイム都市の都市コードの位置に移動し、秒針が0位置＊に移動します。

＊ 機種によっては、0ではなく60と印刷されています。

※ インジケーター針は電波受信結果を表示後、「R」（または「READY」）位置に移動し、さらに押し続けるとホームタイム都市の都市コードの位置に移動します。
※セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。
なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓボタンを押します

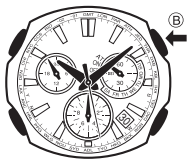
➡Ⓓボタンを押すごとにインジケーター針が1都市ずつ進みます。



3. サマータイムを設定する

Ⓑボタンを押します

➡Ⓑボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● AT(AUTO)
受信した電波の情報にしたがって、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
工場出荷時にLON/PAR/ATH/TYO/ANC/LAX/DEN/CHI/NYCに設定されています。
※電波受信が行なえる都市(LON/PAR/ATH/HKG/TYO/HNL/ANC/LAX/DEN/CHI/NYC）以外の都市には設定できません。

● ON
サマータイムはONになり、スタンダードタイムより1時間進みます（夏時間）。

● OFF
サマータイムはOFFになります(スタンダードタイム)。

※ HKG、HNL、ANCの各都市は、受信機能対応都市としています。条件が良ければ受信する場合もあります。
※ 続けて、「時刻、カレンダーを修正する」場合は、「時刻、カレンダーを修正する」の手順2に進んでください。

ただし、「時刻、カレンダーを修正する」操作に入ると、「ホームタイム都市、サマータイム設定を変更する」状態に戻ることはできません。
Ⓐボタンを押してセット状態を解除して、「ホームタイム都市、サマータイム設定を変更する」の手順1から操作をやり直してください。

4. セットを終了する

Ⓐボタンを押します

➡セット状態が解除されて、変更した設定に対応した時刻に修正されます。
秒針は、時計内部で刻み続けていた秒の値から動き始めます。

■「時刻」、「カレンダー」を修正する

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約5秒間押し続けます



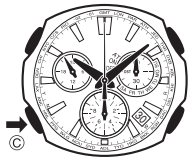
➡インジケーター針がホームタイム都市の都市コードの位置に移動し、秒針が0位置*に移動します。
* 機種によっては、0ではなく60と印刷されています。

※インジケーター針は電波受信結果を表示後、「R」（または「READY」）位置に移動し、さらに押し続けるとホームタイム都市の都市コードの位置に移動します。

※セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。
なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

2. 「時刻」、「カレンダー」を修正する状態にする

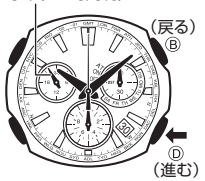
Ⓒボタンを押します



➡インジケーター針が12時位置に移動し、曜日針が0位置*に移動します。
* 機種によっては、0ではなく60と印刷されています。

3. 時分を修正する

Ⓓ またはⒷボタンを押します



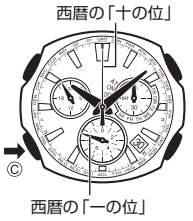
➡Ⓓ ボタンを押すごとに1分ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに1分ずつ戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるにはいずれかのボタンを押します。

※ 時を合わせるときは、時針（24時間制）にもご注意ください。

4. 「年修正」にする

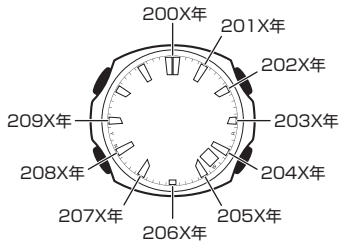
Ⓒボタンを押します



➡年を修正する状態になります。

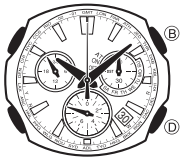
※ 年は、西暦の「十の位」と「一の位」を設定します。

➡Ⓑ ボタンを押すごとに、「十の位」が1つずつ進みます。

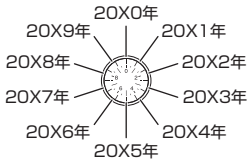


5. 年を修正する

Ⓓ および Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに、「一の位」が1つずつ進みます。



6. 「月修正」にする

Ⓒボタンを押します

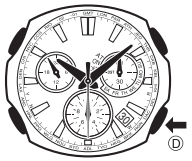


➡月を修正する状態になります。

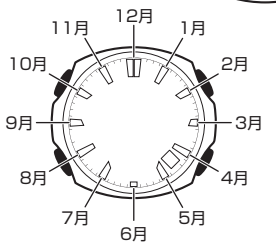
「月」を表す位置に移動

7. 月を修正する

Ⓓボタンを押します

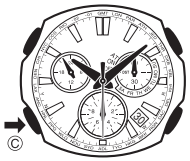


➡Ⓓ ボタンを押すごとに、1つずつ進みます。



8. 「日付修正」にする

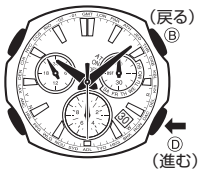
Ⓒボタンを押します



➡日付を修正する状態になります。

9. 日付を修正する

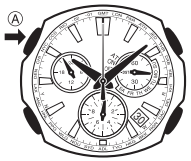
Ⓓ またはⒷボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに1日ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに1日ずつ戻ります。

10. セットを終了する

Ⓐボタンを押します



➡セット状態が解除され、秒針が0秒から動き始めます。

※ 時報に合わせて押すと、正確に合わせられます。

※ 曜日は自動的に算出されます。

日付は電波受信ができる場合はうるう年および小の月を自動修正します。電波受信ができない場合など、ご自身で時刻・日付を合わせる場合は、うるう年や小の月の月末にこの方法で日付を修正してください。

針の基準位置合わせ

電波受信を行なっても時刻が合っていないときは、以下の操作を行なって針位置を確認し、合っていないときは、針位置を合わせてください。
なお、時刻が合っていないとき以外はこの操作を行なわないでください。

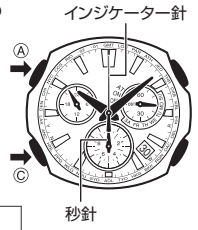
1. 基準位置確認状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを押しながらⒸボタンを約3秒間押し続けます

➡インジケーター針と秒針が基準位置に移動します。

〈基準位置〉
インジケーター針：12時位置
秒針：0位置*
* 機種によっては、0ではなく60と印刷されています。



★インジケーター針と秒針が基準位置にある場合は、手順 *3.* に進みます。

※針の基準位置確認状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。
なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

インジケーター針と秒針がずれている場合

2. 基準位置を合わせる

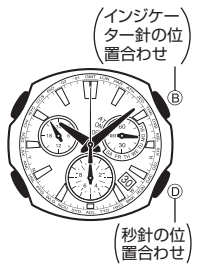
インジケーター針の場合は

Ⓑボタンを押します

秒針の場合は

Ⓓボタンを押します

➡針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。



3. 時・分針と時針（24時間制）を確認する

Ⓒボタンを押します

➡時･分針と時針(24時間制)が基準位置に移動します。

〈基準位置〉
時針：12時位置
分針：12時位置
時針(24時間制)：24時位置

★時・分針と時針（24時間制）が基準位置にある場合は、手順 *5.* に進みます。

時計と分針がずれている場合

4. 基準位置を合わせる

ⒹまたはⒷボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ･Ⓑボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

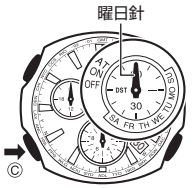
※ 時針(24時間制)は時･分針に連動して動きます。

5. 曜日針を確認する

Ⓒボタンを押します

➡曜日針が基準位置に移動します。

〈基準位置〉
曜日針：60位置



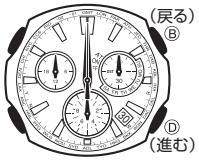
★曜日針が基準位置にある場合は、手順 *7.* に進みます。

曜日針がずれている場合

6. 基準位置を合わせる

ⒹまたはⒷボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。



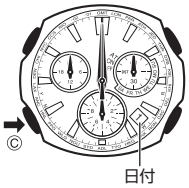
※ Ⓓ･Ⓑボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

7. 日付を確認する

Ⓒボタンを押します

➡日付が基準位置に移動します。

〈基準位置〉
日付：1日



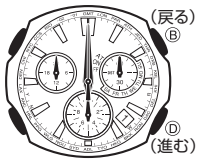
★日付が基準位置にある場合は、手順 *9.* に進みます。

日付がずれている場合

8. 基準位置を合わせる

ⒹまたはⒷボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。



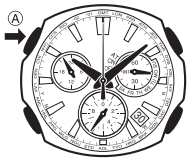
※ Ⓓ･Ⓑボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。
早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

9. 基準位置合わせを終わる

Ⓐボタンを押します

➡時刻モードに戻り、通常の時刻を表示します。

※ Ⓐボタンを押さずにⒸボタンを押すと、最初のインジケーター針と秒針の基準位置確認に戻ります。



針の基準位置合わせが終了したら、電波を受信しやすい場所で「手動受信」を行ない、時刻情報を受信してください。
※手動受信の方法については、「手動受信」をご覧ください。